

# 平成31年度 学校評価シート

学校名: 和歌山県立熊野高等学校 学校長名: 入澤 和彦

|         |   |
|---------|---|
| 目指す学校像  | 生徒が安心して学校生活を送ることができ生徒の自己実現に向けた支援ができる学校  |
| 育てたい生徒像 | 幅広い人間性と「自立」「共生」「挑戦」の精神を身につけて、社会貢献ができる生徒 |

|          |  |
|----------|--|
| 本年度の重点目標 | 1 授業の充実と確かな学力の育成を図る。                   |
|          | 2 キャリア教育の定着とさらなる推進を図り、生徒の希望進路の実現を図る。   |
|          | 3 地域連携の活動を通してその意義を理解し、併せて地域防災意識の向上も図る。 |
|          | 4 倫理観や規範意識を高め、ルールを守り、安心安全な学校生活の実現を図る。  |

|     |                    |
|-----|--------------------|
| 達成度 | A 十分に達成した (80%以上)  |
|     | B 概ね達成した (60%以上)   |
|     | C あまり十分でない (40%以上) |
|     | D 不十分である (40%未満)   |

学校評価の結果と改善方針の公表の方法  
インターネットの熊野高等学校のホームページに掲載するとともに、全保護者、熊高教育協議会会員に会報を通して連絡する。

(注) 1 重点目標は3～4つ程度設定し、それらに対応した評価項目を設定する。 2 番号欄には、重点目標の番号を記入する。 3 評価項目に対応した具体的取組と評価指標を設定する。  
4 年度評価は、年度末(3月)に実施した結果を記載する。 5 学校関係者評価は、自己評価の結果を踏まえて評価を行う。

| 自己評価 |  |   |  |   | 令和元年度評価 (3月31日現在) |   |   |
|------|--|---|--|---|-------------------|---|---|
| 重点目標 |  |   |  |   | 評価項目の達成状況         |   |   |
| 番号   | 現状と課題  | 評価項目  | 具体的取組  | 評価指標  | 達成度               | 次年度への課題と改善方針  |   |
| 1    | 授業は落ち着いた雰囲気の中で展開されている。生徒たちも真剣に取り組んでいる。しかし、積極性、主体性に欠ける部分が見受けられる。また、家庭学習も疎かになりがちである。そのため教員の授業力向上はもとより、生徒たちに目的意識をもたせる働きかけが必要と考えられる。   | 教員が授業研究等を行うことで授業力向上を図っているか。<br>生徒の主体性向上のための、方策が取られているか。<br>科目選択等を通じて、生徒の目的意識向上を図っているか。                              | 上富田町の小中高連携での授業研究を実施し、積極的に各教員が参加し、異校種からの多角的な視点を取り入れ各自の授業力向上を図る。<br>家庭での学習習慣の定着のため、定期的な学習課題を提供するとともにその内容も吟味する。その一方で生徒による授業評価を実施する。<br>生徒各自の進路に即した科目選択ができるよう丁寧な指導をおこなう。 | 研究授業、研究協議を実施した際には、教科の枠を超えて内容を共有できるような情報提供の機会を確保する。<br>課題テストや小テストの実施<br>生徒による授業評価の実施<br>科目選択を実施するうえで、できる限り生徒の希望が叶うよう配慮する。                        | B                 | 各自、各教科が教科指導法を工夫し授業研究・研究協議を実施した。<br>また、各教科で課題テストや小テストを実施し生徒による授業評価を行った。その結果を自己及び、教科で課題を分析し共有することができた。<br>全体的に学習時間をより多く確保できるよう、考查の時間割を見直し期間を短縮した。 | 指導方法の工夫・改善をし、授業力の向上を常に目指し、研究授業・研究協議の機会をしっかりと確保し継続して実施していく。<br>テストや課題を行うことで、家庭学習の重要性を認識させ、生徒の意識改革を図り、学習習慣のより一層の定着を目指す。   |
| 2    | 総合学科では、生徒の進路決定率が98%であった。早い時期から進路意識を喚起させ、自己決定できる生徒の育成。また、担任と連携し、きめ細い指導を行い進路未決定者を減らす努力をしていきたい。<br>専攻科では、卒業生33名のうち、32名が看護師国家試験に合格した。今年度は全員の国家試験合格を目指していきたい。また、進学や大学編入を希望する生徒への組織的な指導体制を整えていきたい。 | 生徒の進路実現に向けての段階的・系統的な取り組みが効果的になされているか。<br>生徒自身が自ら考え行動し決定できる進路指導がなされているか。<br>看護科5年間を見通した継続的な指導が行われているか。               | 進学・就職に対応できる学力を身につけさせる。<br>キャリア教育を通して勤労観・職業観を高める。<br>看護科においては卒業生の体験談を聴くことや異学年との交流を通して進路意識を高める。  | 実力テスト等での低学力者の10%減少。多岐にわたる進路希望への組織的な対応と成果。<br>低学年からインターンシップや校内ガイダンスの効果的な実施により、進路未決定者の減少。<br>生徒への継続的・多面的な進路指導の実施に伴い、希望進路の決定率の向上。                  | A                 | 総合学科の「産社」の早期指導により進路未決定者が大幅に減少した。<br>校内ガイダンスや分野別説明会を数多く行い、インターンシップを実施したことにより、将来と向き合うようになった。<br>看護科に於いても早期の進路指導により就職内定率は高まった。異学年との交流が効果的であった。     | 総合学科では、早期から職業理解や学校選択などの指導を徹底する。<br>進学希望者には学力検査で苦労する生徒が多いため、そういった生徒に対する手立てを教科と協力して取り組む。<br>看護科に於いても進学を希望する生徒や就職試験でも小論文を課せられることが増えているので、希望者に対して小論文講座を取り入れて対応していく。   |
| 3    | サポーターズリーダー部をはじめ農業クラブ、吹奏楽部、読み聞かせサークル等において地域に貢献する多くのボランティア活動を行っている。また上富田町と大規模な合同防災訓練も実施している。こうした活動の成果をさらに高めるために、さらに多くの生徒・職員の参加・協力を促し、地域住民との交流を深める必要がある。  | ボランティア等地域活動についてその意義を理解して参加できているか。また、取り組みの成果が校内で共有化できているか。<br>防災訓練を通して自らを守ることともに、高校生として、災害時に地域にどのような貢献ができるかを理解しているか。 | 教科・部活動等に加え、委員会活動とも連携しながら、積極的に地域の活動に参画する。<br>マンスリータイムスやアセンブリ等の機会を利用して、地域活動の成果を共有する。<br>上富田町と合同の防災訓練を行う。   | 全生徒の地域活動への参加目標回数を年3回以上とする。<br>地域での活動をホームページなどに積極的に掲載し広報活動を行う。またアセンブリ時に積極的に取り上げる。<br>緊急時の退避行動を迅速にとることができる。救命措置を適切に行うことができる。自発的に地域貢献の行動をとることができる。 | A                 | 授業や課外活動に於いて積極的に地域貢献活動に取り組んだ。<br>サークル活動では、読み語りボランティアなどの活動も積極的に地域の施設慰問等で喜ばれている。<br>町民との合同防災訓練では、本校の生徒が中心となって様々な役割を果たした。                           | 地域貢献活動については学校行事やクラブ活動、生徒会活動として十分に達成できているが、さらに多くの地域貢献活動を行うことを次年度の課題とした。<br>防災訓練をおとして、実際に災害時の地域にどのような貢献ができるかを想定し、防災意識を高めることが課題である。さらなる地域防災の担い手としての意識の向上を次年度の課題としたい。 |
| 4    | 暴力事象等大きな問題行動も減少傾向にあるが、SNSの利用が懸念される。更なる挨拶、マナー指導の充実と集団の秩序と連帯感、学校や学年への帰属意識を醸成する。  | 挨拶、マナー指導(SNS使用のマナーも含む)の充実を行い、基本的な生活習慣の確立が行えるよう、継続した指導を行っていく。また、集団の秩序と連帯感についても常に指導の中心としていく。                          | 頭髪服装指導<br>新入生宿泊研修<br>在校生校内研修<br>駐輪指導<br>遅刻・無断欠課防止週間<br>登校時自転車通学指導<br>SNSのマナー   | 学年アセンブリで点検指導の後も指導を継続する。<br>校内巡視及び校門指導等の事後指導等を継続して行う。<br>遅刻無断欠課防止の啓発及び事後指導を行う。<br>些細な事象でも見逃さず継続した指導を行う。  | A                 | 1学年全員で学校周辺の水路掃除をすることにより地域へ貢献することの大切さを学んだ。<br>また、挨拶運動等で地域との交流が十分できた。<br>学校全体は落ち着いていて指導件数はほとんどないが、SNSや自転車のマナーにおいてはまだまだである。                        | 職員全体が連携を密にして、挨拶指導の大切さを再確認すると共に服装や頭髪指導を積極的に実践していく。<br>マナー指導についても、研修の機会を増やし、基本的な生活習慣の大切さを生徒に理解させ、身につくよう取り組んでいきたい。   |

| 学校関係者評価   |  |
|---|--|
| 令和2年3月5日実施  |  |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等   |  |
| <p>総合学科の授業のカリキュラムは、更に学力向上を目指し工夫して欲しい。進学クラスを考へても良いと思う。また、看護科においては学習面でも実力をつけて来ている。地域の医療看護に携わる生徒も多く排出され、喜ばしい事と思う。現場では思いやりの心が大切だ。人間力のある優しい人を育てて欲しい。</p> <p>クラブ活動では、今の社会性を持った(サポーターズリーダー部のハートフックやラグビー部のナビアチーム歓迎プロジェクト等は町民と一体となった活動)地域との係わりを大切にすれば素晴らしい活動であった。更なる先生方の指導の導きを期待している。</p> <p>昨今コンプライアンスが厳しく言われる中、運動部活動方針等では世の中の流れに従うのは仕方がない。勉強させたいし、思い切り運動もさせたい。意欲を持たせたい、チャレンジをさせたいという方針に賛同する。学習面とクラブ活動を両立させて頑張らせて欲しい。</p> <p>以上の意見要望があった。<br/>学校では新学習指導要領に向けたカリキュラムの改革と授業改善を積極的にに取り組んでいるところである。本校としては、今後より一層、地域に根ざした学校づくりを目指して積極的に取り組んでいく所存である。</p> |  |